



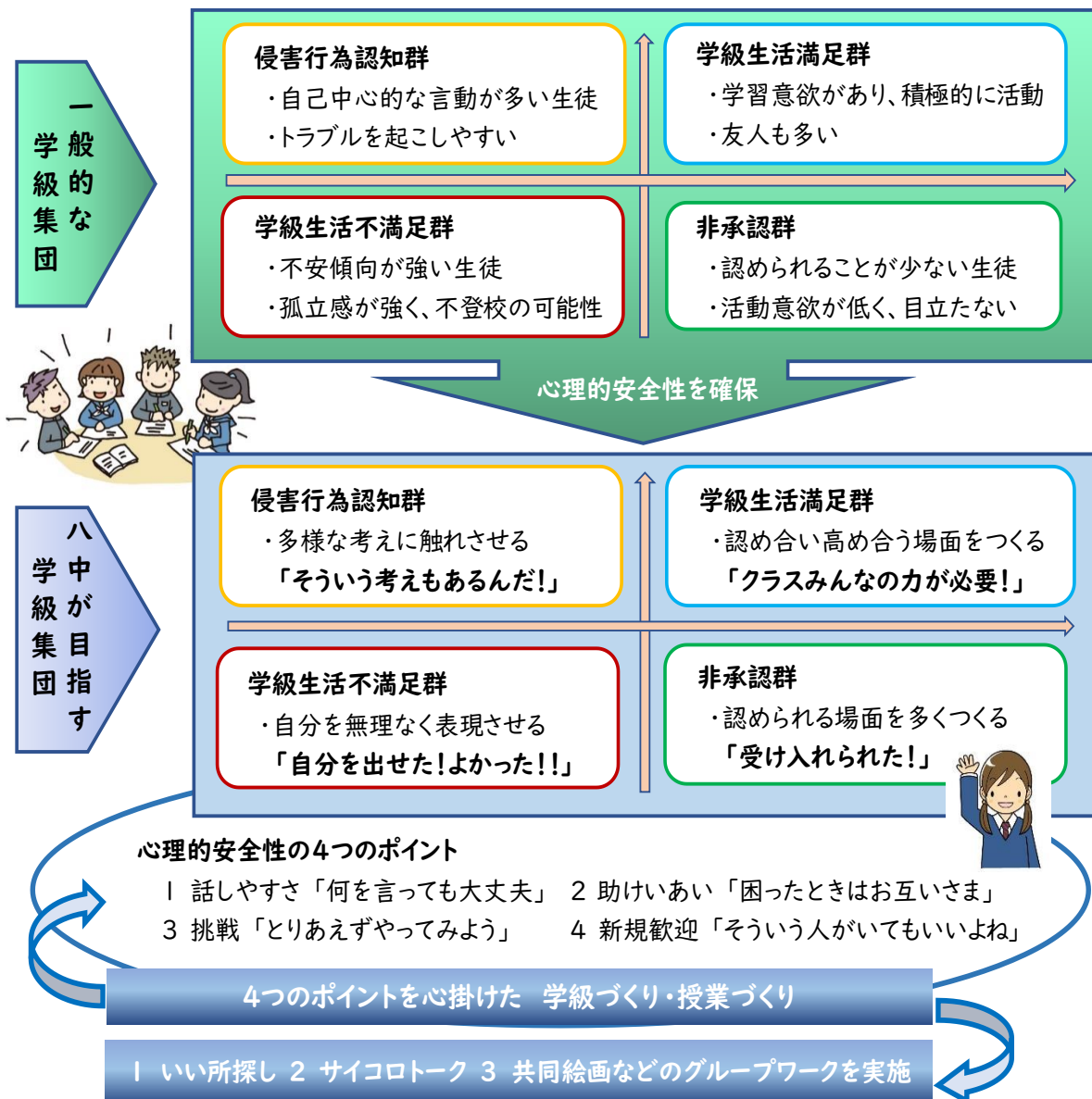
HP : <http://www.chofu-schools.jp/chofu8/>

心理的安全性に満ちた学級づくり

校長 佐藤 政彦

今年の学校スローガンを『心理的安全性に満ちた、さわやかで気持ちのいい八中』としました。この言葉に込めた思いについては、全校朝礼や保護者会でお話しさせていただきました。

そこで、本校では次のような視点で、心安らげる学級づくりを進めてまいります。



本校は、学区外から通学している生徒が、全体の4割近くになります。本校を選んだ理由は様々だとは思いますが、不安なく安心して登校できる学校・学級づくりが必要であると考えています。そのためにも、素直に自分が出せ、気軽に意見が言えるような、心理的安全性に満ちた学級づくりを目指しています。

離任式

4/28(金)の離任式に、3月に本校を去られた5人の先生にご来校いただきました。それぞれの先生には、代表生徒が感謝の気持ちを込めて、お礼の言葉と花束を渡しました。



□□先生は、「ふるさとは遠きにありて思ふもの」の室生犀星の詩の一部を述べ、「八中の良さはその温かさです。4年間、副校長としてみんなが気持ちよく生活できるよう考えて仕事をしてきました。八中の温かい伝統をさらに伸ばしてほしいと思います。」と締めくくられました。

□□先生は、「八中の良さは、あいさつの良さです。これはどこの学校にも負けない、大切なものです。あいさつは本当に大切です。これからも元気な八中をみんなで創っていきましょう。」と話されました。

□□先生は、現在勤務している学校で勉強している「手話」を使って自己紹介をしていただきました。そして「新しいことに挑戦すると、いろんなことが見えてきます。八中での6年間はとても充実して短く感じました。皆さんも先に進むには前を向くしかありません。恐れずに楽しく生活してください。」と話されました。

□□先生は、「八中生は、みんな前向きに勉強に励んでくれました。これからも気を引き締めて頑張ってください。」と話され、ベートーヴェンの交響曲第九番「合唱」をドイツ語で歌っていただきました。

□□先生は、「八中は、とても良い環境です。人は慣れてしまうとそれが当たり前のように生活してしまいます。それを失って初めて気づくことが多いのですが、その場にいるときに、その有り難さに気づき、感謝できる人間になってほしい。」と語られました。

最後に全校生徒から校歌をプレゼントして離任式を終えました。離任された先生方、それぞれ転勤された学校でこれからもご活躍ください。

調布市防災教育の日

調布市は4月の第四土曜を「調布市防災教育の日」として、

市内全小・中学校で防災教育に取り組んでいます。今年度も4月23日に内容を、一部縮小して実施しました。



1校時は、防災啓発講話として石巻市防災士協議会の武井友佑さんを講師にお迎えして、「東日本大震災から変わった意識、これからもあり得ること。」というテーマで、講演をいただきました。東日本大震災で東北の被災地での話や、東京でも起こりうることへの備えについて、新しい視点から講演いただきました。2校時は全学年「命の授業」として道徳授業を行いました。1学年は、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重することを主題として、「東日本大震災から10年 被災地の写真スタジオで働いていた人の経験を描いた漫画が教えてくれること」という教材を使用し、当たり前の生活ができることのありがたさを考えました。2学年は、「3.11を忘れない」という東日本大震災を経験した同年代の子供たちの作文を読み、生きていることの有り難さに思いを寄せ、自らの命の大切さを深く自覚するとともに、他の命を尊重することの大切さを考えました。3年生は、東日本大震災を経験し、中学の卒業式で卒業生代表として「門出の言葉」を行った生徒の文章を資料とし、その当時の動画を見ながら道徳の授業を行い、自他の生命について考えました。その後、11時から地震発生を想定した避難訓練を行いました。真剣に取り組む様子は、調布消防署の方の講評でも褒めてくださいました。授業と並行して、体育館では調布市の職員による避難所開設訓練も行われました。今年度も引き渡し訓練・避難所体験が実施できませんでしたが、災害の際にはご協力お願いいたします。



緑が丘・仙川まちづくり協議会主催 <仙川鯉のぼり流し>